



TITLE:

まえがき

AUTHOR(S):

岩本, 武和

---

CITATION:

岩本, 武和. まえがき. 岩本ゼミナール機関誌 2003, 7: 2-3

ISSUE DATE:

2003-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56922>

RIGHT:

## まえがき

昨年の「青竹会」には、お忙しいところ、遠方から  
もたくさん集まっていたき、ありがとうございました。  
OB・OG会というより、何やら圭吾と私の披露宴  
のようで、羞恥の至りでした。

あの折りにもお話ししましたが、現時点での記録と  
して、再度書いておきます。岩本ゼミの卒業生は、現  
在 60 名です。

1 期生(1996 年卒)	加藤寛	3 名
2 期生(1997 年卒)	谷口繁紀	11 名
3 期生(1998 年卒)	加地健一	10 名
4 期生(1999 年卒)	岡崎将也	7 名
5 期生(2000 年卒)	藤嶋正信	7 名
6 期生(2001 年卒)	丸山洋平	10 名
7 期生(2002 年卒)	藤中康生	12 名
合 計		60 名

また、今年卒業する 8 期生(現 4 回生)と、入ゼミの  
11 期生(現 1 回生)を含めた現役生は、現在 29 名です。

8 期生(2003 年卒)	城山卓也	9 名
9 期生(2004 年卒予定)	沓脱誠	6 名+2 名
10 期生(2005 年卒予定)	松岡孝恭	4 名
11 期生(2006 年卒予定)		8 名
合 計		29 名

つまり、現時点での「青竹会」の人数は、合計 89  
名(うち、8 期生を含めた卒業生は 69 名、次期 4 回生  
を含めた現役生は 20 名)です。また TA も、初代の高  
橋君や、山本君や田中さん、現在に至るまで世話にな  
っている柴田君、来年度は院試に合格した河村君が加  
わってくれるはず。今回の「青竹会」の時点では、  
ようやく 100 人を超え、参加者も 50 人以上になるこ  
とでしょう。会場も、京大会館→コープイン京都→リ  
ーガロイヤル京都と、段々とグレードアップしていま  
す。昨年のリーガロイヤルはどうでしたか？ 鎌田か  
ら開始時間をもっと早くしてくれ、という意見を聞き  
ましたので、次回はもう少し早めます。東京でもやり

たいのですが、その場合は現役生が準備できないので、  
猪俣あたりが音頭をとって下さい。

私が京都大学に着任したのは、1993 年 4 月、まだ  
35 歳の頃で、今は 2003 年 3 月、私も 45 歳になり、  
京大でもう 10 年も経ってしまいました。その意味で、  
今回は「京大岩本ゼミ 10 周年記念号」です。

この 10 年間は、私にとって波瀾万丈の年月で、父  
の死去に始まり、離婚→結婚→離婚→結婚を繰り返して、  
家を新築したと思ったら、寒々とした別荘に暮らして  
いた一時もあり、あの時は皆さんには迷惑やら心配を  
かけました。こうした慌ただしい私生活の一方で、仕  
事の方はそれなりにやってきたつもり。博士学位も取  
得したし、教授にも昇任したし、本も出したし、アカ  
デミズムでも(ただし日本のローカルなアカデミズム  
に限定すれば)少しは認知されたかな？ 天国も見た  
し、地獄も見た。まあ 45 歳にもなれば、いろんなこ  
とを経験しますよ。困難に陥った時、苦悩にさいなま  
れた時、死にたいと思った時、ぜひご一報下さい。「別  
れるな、死ぬな」と忠告しますから。

これも昨年言ったことですが、2 年に一度「青竹会」  
を開催したり、毎年この「機関誌」を出したりしてい  
ることの、私にとってのインセンティブは、この間自  
分はこういうことをやってきたのだ、ということをお  
皆さんの前で報告できるようにしておくこと。この間  
には、何かまとまったことをしておかなければ、皆さん  
に会わせる顔がない、との思いからです。

とは言うものの、この 1 年間はろくな仕事をしてい  
ません。これでもう本当に最後の年貢納めにしよう  
との思いから、結構私事に精力を使い、2004 年 4 月  
から始まる「国立大学法人」に向けての準備等で雑用  
に追われ、依頼原稿をいくつか書いただけ。創造的な  
仕事はほとんど形になっていません。

ほぼ 2 年がかりの岩本武和・阿部顕三編『国際経済・  
金融辞典』(岩波書店、2003 年刊行予定)は、遅れに遅  
れて、今年 6 月以降の出版になりそうです。昨日よう

やく同辞典の「まえがき」を書いて、今カナダにいる阿部さんに送りました。2 本ほど書きかけの原稿があり、この『機関誌』に間に合わそうとしたのですが、入試業務等で果たせませんでした。

今やりかけのテーマは、**The Procyclical of the New Basel Capital Accord** というもので、2006 年に実施予定の新 BIS 規制(ミクロ的規制)が、マクロの景気循環に対して、中立的ないしは **anti-cyclical** か、**procyclical** かという問題で、BIS などでは結構大きく取り上げられています。このテーマは、対象が BIS 規制だけにとどまりません。かつてのオーソドックスなケインズ政策では、景気循環に対して必ず **anti-cyclical**(反循環的)なスタンスをとってきました。それがいつ頃からか、マクロ経済政策も含めて、**pro-cyclical**(順循環的)なものになってきました。この『機関誌』に掲載した「スティグリッツ vs. IMF 論争」も、景気が悪化しているのにコンディショナリティーを課すという **pro-cyclical** な政策に対する是非を問うものと位置づけてもよいかもしれません。日本の失われた 10 年も、この文脈でとらえることが可能で、言うまでもなく小泉政権の構造改革というスローガンも、**pro-cyclical** な政策に属します。いわゆるグローバル・デフレも、中国を含めた新興諸国の市場参入も大きな原因でしょうが、先進国で主流となったミクロのサブライ・サイド重視の **pro-cyclical policies** も一因ではないかと考えています。BIS 規制とか IMF コンディショナリティーというミクロ的には正しいかもしれない政策を、マクロ的には正しいはずの **anti-cyclical** な政策とどのように調和させるかが、さしあたり私が関心を持っているテーマの一つです。

ところで、私は昨年 12 月に、卒業生・現役生を含め、留学に必要な推薦状を計 40 通以上も書かなければなりませんでした。清谷は留学先は決まったの？卒業生で今外国にいる人も当然ながら結構増えてきました。今年度も、結婚した人、子供が生まれた人の報告を受け、改めておめでとうございます。落としてし

まう人もいるかもしれませんから、名前は省略します。相変わらず国 I 志望の多いゼミですが、経済学部も法人化にあわせて、ビジネス・スクールだけでなく、公務員養成ないしは再教育を目的とした「公共政策専攻」という新たな大学院コースの設置に向け動き始めています。そんなこんなで、皆さんとは卒業後も大学でまた顔を合わせる機会があるかもしれませんね。

8 期生の皆さん、卒業おめでとう。ゼミ長の城山君は、このゼミで養えたであろうリーダーシップを社会に出てから役立てて下さい。大塚さんと熊野君は、インゼミで見違えるほど飛躍しましたね。やはりインゼミは、このゼミの重要なイベントだと実感しました。山村さんは、これからもアメリカでの成功を祈っています。特に帰国後は、勉強に対して非常に前向きになっているのに驚きました。西海君は、ずっとおとなしかったけれど、今後も堅実な歩みを続けて下さい。森本君には初心貫徹を期待しています。櫻本君は、4 回生になってもいつもゼミを気づかい出席してくれたことに感謝しています。二人ともいい経験をしましたね。小椋君は、3 回生からの参加にもかかわらず、8 期生の中では最もゼミに貢献してくれました。私の『朝日』嫌いが修正されるよう良い仕事をして下さい。河村君とは、これから長いつきあいになると思いますが、院試での高(好)成績を励みにして、飛躍を期待しています。7 期生の米崎君、顔を合わせると「おカネがない」の連発でしたが、ユニークなキャラクターで 4 年間楽しませてもらいました。

最後に、ホームページについて、皆さんのご意見があればお寄せ下さい。あれは藤嶋君が置き土産として作っていつてくれたのを、そのまま手直しもせずに、ずっと柴田君が管理してくれています。たまには掲示板を開けて、近況報告などにご活用下さい。皆さんの意見を聞いて、手直しを始めようと思っています。

2003 年 3 月 4 日(父の逝去 10 周年の日に)

岩本 武和